産業人クラブだより ―かけはし―

小さくても本物

宮城 角田精工 社員発想力で効率化

角田精工（宮城県角田市、大石貞雄社長、0224・63・3750）はプラスチック射出成形を手がける。アルプス電気角田工場（同）に隣接しており、同工場で生産管理などを担当していた大石貞雄社長が1987年に独立して設立した。当初はアルプス電気向けの仕事がほとんどだったが、現在では電機、電子部品、発動機関連など取引先は約15社に広がっている。創業時は８人だった社員も、今は40人だ。

工場内には型締め力30㌧から150㌧までの成形機約30台がそろう。成形品は、小さいものでコメ粒の３分の１程度、大きいものはノートパソコン程度まで扱う。金型製作からプラスチック射出成形までの一貫生産が強み。精密な金型加工技術を生かし、ネジ形状など複雑形状の部品成形を得意とする。

24時間稼働の生産現場では効率化を追求。社員の発想力を引き出す改善活動に日常的に取り組んでいる。

24時間稼働する生産現場では効率化を追求

東日本大震災では断水の中、近くの川から水をくんで成形機の冷却水として活用。震災後４―５日で操業を再開し製品の供給責任を果たした。仕事量は「震災後に一時的な落ち込みはあったが、現在は順調」（大石社長）という。取引先の海外生産シフトから受注確保は今後の大きな課題だが、蓄積した技術を応用し、医療・福祉機器、農業機械関連など新分野の開拓に意欲をみせる。

トピックス

群馬 秋葉ダイカスト工業所 タイ現法 4月に稼働

秋葉ダイカスト工業所（群馬県高崎市、日下田雅男社長、027・361・4499）は、４月にタイ・ナコンラチャシマ県で現地法人「タイ・アキバ＝写真」を本格稼働させる。海外展開では2009年に日本電産トーソクと合弁で設立したベトナム拠点に続く第２弾。タイ進出の日系自動車サプライヤーとローカルメーカーに輸送機器用アルミニウム製ダイカスト部品などを供給する。

現法は資本金６億円で、筆頭株主の秋葉ダイカストの出資比率は45％。当面はダイカストマシン５台体制で自動車部品などを月２万―３万個製造する計画だ。

タイといえば、11年秋に日本企業の製造拠点にも大打撃を与えた大洪水の記憶が生々しい。現地はなだらかな傾斜となっており、新工場はその中腹に立地する。そのため洪水被害を受けるリスクは小さいという。

実は日下田社長は以前から洪水について認識していた。「かつて建設地付近の工場が洪水被害に遭ったと聞いていた」からだ。

タイの新工場は自動化ラインを設置し、人員は40―50人にとどめる。自動化することで自社のノウハウをブラックボックス化できるため、技術流出も防げる。また同社が11年に確立した真空ダイカスト法などの手法もタイ拠点に持ち込む。高い品質を武器に、年々技術力を高めている現地企業と差別化する考えだ。

トップインタビュー

福島県鉄工機械工業協同組合理事長（福島熔材工業所社長）渋谷 修一 氏に聞く

若手経営者を積極育成 組合員視点の運営目指す

福島県では東日本大震災の地震や津波の被害に加え、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響が復興の足かせとなっている。また経済のグローバル化の加速は、中小企業の経営環境を一層厳しいものにしている。このような中、福島県鉄工機械工業協同組合は組合員企業のいち早い復旧と将来への経営基盤の強化を推進する。同協組理事長を務める福島産業人クラブの福島熔材工業所（福島市）社長の渋谷修一氏に復旧・復興の課題を聞いた。（福島支局長・阿部義秀）

◇

―震災による組合員企業の被災状況は。

「震災当日から組合員62社への安否確認を進め、１週間後にはファクスによる被災調査アンケートを実施した。幸いにも『組合員での人的被害はなし』との報告を受け安堵した。さらに、８月に実施したアンケートでは、原発事故の影響で、生産活動を一時停止した企業が26％、返品やキャンセルの被害が11％など、何らかの影響を受けた企業がほぼ半数を占めた。協組では安全の裏付けとして各社に製品などの放射線量の測定を奨励し、機器の購入を仲介した」

―被災企業の復旧に向けた支援は。

「従来の県内外企業からの共同受注や購入、販売あっせん業務などに加え、損壊した社屋や設備の修繕、購入の際に活用できる『中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業』などの、国や県の支援制度の紹介。書類作成時の指導を行うなど、被災企業のいち早い復旧にむけた環境づくりを進めている」

―中小企業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

「円高や欧州での金融危機など、国内生産を維持するには、付加価値の高いモノづくりに参画することが求められる。単独での商品企画・開発力があれば対応できるが、中小企業では難しいのが現状だ。そこで協組の支援が期待される。今後も組合員企業のスキルアップにつながる事業を継続的に展開していく」

―今後の事業展開は。

「福島大学と初めて交流会を開くなど、市場ニーズや大学が持つシーズの最新情報を収集する場を提供し、新規事業の創出を図る。またクラウドコンピューティングの導入による受発注や入札情報などの共有化、効率化を推進する。次代を担う若手経営者らで組織する青年部の強化・育成にも積極的に取り組み、常に組合員の視点に立った運営を目指していきたい」

しぶや・しゅういち 76年（昭51）中央学院大商卒。77年福島熔材工業所入社、85年専務、09年社長。10年から福島県鉄工機械工業協同組合理事長。福島県出身、58歳。

3―4月の予定

【3　月】

◇**3日（土）名古屋産業人クラブ 観劇会**「劇団四季・ウィキッド」（名古屋市中区、新名古屋ミュージカル劇場）

◇**4日（日）―8日（木）日本産業人クラブ連合会・日刊工業新聞社**「インドネシア産業視察ツアー」（スラバヤ、ジャカルタなどで工業団地や企業を訪問）

◇**6日（火）城北産業人クラブ**「ゼミナール」講師：東京理科大教授・小林宏氏　テーマ：「マッスルスーツの研究開発について」（東京都千代田区、東京理科大学九段校舎）

◇**7日（水）―10日（土）長野産業人クラブ**「台湾産業視察ツアー」（台湾・行政、中小経営者との懇談、新竹科学工業園区など視察）

◇**9日（金）福島・いわき・宮城・山形の各産業人クラブ共催**「復興支援シンポジウム　ｉｎ　福島　―変わる！復興から新しい東北の創造へ―」　講師：中小企業基盤整備機構東北支部震災復興アドバイザー・西村哲雄氏　演題：「復興事業計画の策定について」、現地報告、パネル討論、交流懇親会（福島市、ホテル辰巳屋）

◇**14日（水）埼玉産業人クラブ**「分科会」講師：ＮＴＴ東日本埼玉支店長・光山由一氏（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局）

◇**15日（木）茨城産業人クラブ・工場見学会**「住友金属工業鹿島製鉄所および安全体感施設」（茨城県鹿嶋市）

◇**15日（木）東京産学交流会（サザンクロス）３月例会**「想定外の危機に対応するＲ＆Ｄマネジメントとは」講師：元キヤノン材料技術研究所長・村井啓一氏ほか（東京都中央区、日刊工業新聞社）

◇**16日（金）埼玉産業人クラブ・ＴＤＵ産学交流会**「春季ゴルフ大会」（埼玉県嵐山町、嵐山カントリークラブ）

◇**21日（水）―22日（木）東京産業人クラブなど**「山形県産業視察ツアー」（山形県内工業団地、企業を訪問）

◇**22日（木）―23日（金）群馬産業人クラブ・前橋市異業種交流グループ**「先端企業技術見学会」見学先：日立製作所日立事業所（茨城県日立市）、コマツ茨城工場（同ひたちなか市）

◇**22日（木）大分産業人クラブ**「設立総会＆記念祝賀会」（大分市、大分全日空ホテル）〈大分県内の中小企業経営者を中心に会員12人、オブザーバー１人の計13人で当初発足する予定。総会では会則などを審議・承認する。九州・山口産業人クラブからも関係者が参加し、計約30人で新しい産業人クラブの門出を祝う〉

◇**23日（金）埼玉産業人クラブ・ＮＩＴＥＣ埼玉産学交流会**「第55回ゴルフ大会」（茨城県つくばみらい市、筑波カントリークラブ）

◇**23日（金）大阪産業人クラブ・日本産業広告協会**「蘇る、ＣＳＲセミナー」（大阪市中央区、日刊工業新聞社大阪支社）

◇**29日（木）大阪産業人クラブ**「第72回ゴルフ大会」（大阪府交野市、交野カントリー倶楽部）

【4　月】

◇**4日（水）大阪産業人クラブ**「工場見学会」（滋賀県甲賀市、近江鍛工信楽工場ほか）

◇**11日（水）中国四国産業人クラブ**「第28回こんぴら歌舞伎鑑賞の旅」（香川県琴平町、四国こんぴら歌舞伎大芝居）

◇**13日（金）新潟産業人クラブ**「新潟県工業技術総合研究所の見学説明会」（新潟市中央区、同研究所）

◇**19日（木）名古屋産業人クラブ**「2012年度定時総会＆講演会」（名古屋市中村区、名鉄ニューグランドホテル）

◇**25日（水）埼玉産業人クラブ・ＴＤＵ産学交流会**「会員企業による学生向け就職説明会」（埼玉県鳩山町、東京電機大学理工学部）

モノづくりテーマ講演会に150人参加 茨城産業人クラブ

茨城産業人クラブ（柳生修会長＝コロナ電気社長）は2月6日、水戸市の水戸京成ホテルで新春経済講演会・賀詞交歓会を開いた。経済講演会では講師に大田区産業振興協会の高月茂企業支援グループディレクターを迎え、「グローカル展開に活路を見いだす、日本のモノづくり企業」をテーマに講演した（写真）。会員や関係者ら約150人が聴講した。

高月氏は東京都大田区のモノづくり技術の性質を説明した上で海外展開支援の取り組みの被災状況は。

「震災当日から組合員62社への安否確認を進め、１週間後にはファクスによる被災調査アンケートを実施した。幸いにも『組合員での人的被害はなし』との報告を受け安堵した。さらに、８月に実施したアンケートでは、原発事故の影響で、生産活動を一時停止した企業が26％、返品やキャンセルの被害が11％など、何らかの影響を受けた企業がほぼ半数を占めた。協組では安全の裏付けとして各社に製品などの放射線量の測定を奨励し、機器の購入を仲介した」

―被災企業の復旧に向けた支援は。

「従来の県内外企業からの共同受注や購入、販売あっせん業務などに加え、損壊した社屋や設備の修繕、購入の際に活用できる『中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業』などの、国や県の支援制度の紹介。書類作成時の指導を行うなど、被災企業のいち早い復旧にむけた環境づくりを進めている」

―中小企業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

「円高や欧州での金融危機など、国内生産を維持するには、付加価値の高いモノづくりに参画することが求められる。単独での商品企画・開発力があれば対応できるが、中小企業では難しいのが現状だ。そこで協組の支援が期待される。今後も組合員企業のスキルアップにつながる事業を継続的に展開していく」

―今後の事業展開は。

「福島大学と初めて交流会を開くなど、市場ニーズや大学が持つシーズの最新情報を収集する場を提供し、新規事業の創出を図る。またクラウドコンピューティングの導入による受発注や入札情報などの共有化、効率化を推進する。次代を担う若手経営者らで組織する青年部の強化・育成にも積極的に取り組み、常に組合員の視点に立った運営を目指していきたい」

しぶや・しゅういち 76年（昭51）中央学院大商卒。77年福島熔材工業所入社、85年専務、09年社長。10年から福島県鉄工機械工業協同組合理事長。福島県出身、58歳。

事例屋国内の多様な取引チャンネルを紹介。「大手と中小による〝系列〟が崩れてきている。大手による外注型の開発がパートナーシップの再構築につながり、国際競争力を備えた新製品や技術になるのではないか」と話した。

橋本昌茨城県知事が賀詞交歓会に駆けつけ、「今年は地震、津波、原発などによる影響を振り切って発展できる年にしたい」と抱負を述べた。

青木ハルナグループ代表が講演 長野産業人クラブ

長野産業人クラブ（太田哲郎会長＝オリオン機械社長）は2月22日に、長野市のホテル国際21で新春講演会を開いた。会員ら19人が参加。ペットボトル飲料などの製造を手がけるハルナグループの青木清志代表が「後発企業でも成功できる一歩前を読む経営」をテーマに講演した（写真）。

ハルナグループは1996年に中核企業のハルナビバレッジ（群馬県高崎市）を設立。設立15年目で連結売上高約160億円の企業に成長した。60歳を超えて起業した青木代表は「顧客が喜ぶことは何かを考え、どこにもないものを誰よりも早く提案するようにしてきた」と、創業当時からの基本姿勢を述べた。

太田会長の代理であいさつした春日秀之副会長（ＮｉＫＫｉ　Ｆｒｏｎ社長）は「青木代表は起業で日本を変えたいと思ったのではないか」と、青木氏をたたえた。講演後、なごやかな雰囲気の中で懇親会が行われた。

恒例社長会に20人が参加 新潟産業人クラブ

講師の大田さん

新潟産業人クラブ（谷地田茂明会長＝ヤチダ社長）は2月16日、新潟市中央区の新潟市歴史博物館「みなとぴあ」で恒例の社長会を開いた。例年にない大雪が降り積もる中、経営者ら20人が参加した。同館は明治期に建てられた新潟市庁舎、旧新潟税関庁舎、石倉、昭和初期建造の第四銀行住吉町支店などが集まり歴史観光の見どころ。これらの建物を解体して移築復元した文化財的な博物館。

講師は新潟方言・郷土文化研究家の大田朋子さん。「新潟・越後人のおもしろ知識」のテーマで方言や慣習を引き出し、県民の人の良さを笑顔の会員と和気あいあいに語った。その後、洋館でフランス料理とワインで懇親を深めた。

掛川モノづくり若手経営者交流会 東京、多摩など5産業人クラブ

東京、多摩、千葉、新潟、掛川の5産業人クラブは2月9、10の両日、静岡県掛川市内で「全国若手経営者交流会　ｉｎ　掛川」を開いた（写真）。各地で次代のモノづくりを担う若手経営者が、掛川市に集結し、ホスト役の掛川産業人クラブ（榛葉貴博会長＝榛葉鉄工所社長）の会員と交流した。

初日はグランドピアノを製造するヤマハ掛川工場を見学。自動機の活用が進む中、人の五感を働かせる工程も多く両者の対比が新鮮だった。完成したピアノ3台の音色を聞き比べ「一台ずつ個性が違う」と実感した。

2輪車用マフラー製造の榛葉鉄工所では日本人女性やタイの研修生の姿も見られた。全体会議では井水治博日刊工業新聞社社長が「創意工夫しイノベーションに挑戦しよう」とあいさつ。榛葉会長、臼井努多摩産業人クラブ会長（京西テクノス社長）の活動紹介に続き、参加者も近況や経営課題、事業展望を報告。その後の交流会でも活発に情報交換した。

翌日は浜松市のスズキ歴史館で往年の車やバイクを楽しみ、アルモニコスでは3次元レーザーキャナーを使ったモデリングを実演、最先端のＣＡＤ技術を体感した。最後に臼井会長が「2日間学んだことを自社で生かそう。次回はぜひ多摩に来て下さい」と再会を誓った。

人材活用・株式上場テーマに研究会開く 千葉産業人クラブなど

千葉産業人クラブ（白鳥豊会長＝白鳥製薬社長）とベンチャークラブちば（千葉市美浜区、中山充史会長、043・299・2907）は共催で、2月14日に「ちばベンチャーサロン／実践・経営研究会」を千葉市美浜区のホテルグリーンタワー幕張で開いた。企業関係者ら約30人が参加した。

2部構成で、第1部ではプレス機械の保守管理サービスを手がけるしのはらプレスサービス（千葉県船橋市）の篠原正幸専務が「人材活用戦略について」と題して、同社の新卒採用の取り組みなどを紹介（写真）。「望んで入社した社員は一人もいないのが中小企業。社員を奮起させるため、事業の理想を絶えず持ち、会社の経営情報の公開や行政の支援の活用などに積極的に動いて〝モテる、いい会社〟になることが重要だ」と話した。

第2部では大阪証券取引所の小西雄二氏が「株式上場のポイントについて」講演。上場までの流れや市場の審査基準、上場時の心得などを説明した。

同研究会は講演などを通じて参加者の人脈を広げ、事業展開の足がかりの場を提供している。

モノづくりテーマ新春経済講演会 岐阜産業人クラブ

岐阜産業人クラブ（遠藤宏治会長＝カイインダストリーズ社長）は2月8日、岐阜市の岐阜都ホテルで「2012年新春経済講演会・懇親会」を開いた。自動車部品メーカーの國本工業（浜松市東区）の國本幸孝社長が「『省エネ・省資源・軽量化』を目指したモノづくり」をテーマに講演。その後会員企業の経営者ら約70人が交流した。

講演では國本社長が、2輪車部品メーカーから自動車部品メーカーへの変身を成功させた独自技術による部品開発を紹介した。「顧客が求めるものが欲しいもの。自己満足の技術では売り物にならない」と顧客本意の大切さを強調。「良い意味で自信を持たないこと。これを繰り返し継続してきたことが今の当社を育てた」と信条を披露し、聴講者の共感を集めた。

おもてなしの心得 女性部会員が学ぶ 大阪産業人クラブ

大阪産業人クラブ・女性部会（野田祥代部会長＝野田テック会長）は2月18日、京都市左京区の「岡崎・つる家」で女性部会を開いた（写真）。昼食を食べながら女将（おかみ）の出崎和子さんからおもてなしの心得などを聞いた。

前夜の雪で、東山の木々や瓦屋根が雪帽子をかむり京都の風情を一層引き立てていた。つる家は1908年（明41）に大阪・北浜で創業。以来、食の迎賓館と称され、多くの貴賓をもてなす格式ある料亭として重用されている。雪化粧された庭園を見ながらおいしい料理に舌鼓。おもてなしの心は「料理、気配り、笑顔」を大切にし「おいしかった、楽しかった」と思って帰っていただくことだと女将は語った。

新入会員

大阪産業人クラブ

▽湯本　秀逸氏　湯本電機専務（大阪市東成区東今里2の8の12、06・6976・3366、プラスチック切削加工、電設資材製造・販売）

おことわり

「産業人烈伝」は9日付から掲載します。

産業人クラブ入会のご案内

～ビジネスチャンスを産む異業種交流・研修活動～

日本産業人クラブ連合会
〒103-8548　東京都中央区日本橋小網町14-1
住生日本橋小網町ビル
日刊工業新聞社内
TEL.03-5644-7284　FAX.03-5644-7249

ホームページで全国のクラブの活動を紹介しています。
http://www.sangyojin.com

日刊工業新聞に月１回（予定は第１金曜日）に１ページの産業人クラブ面「かけはし」を掲載しています。過去の「かけはし」もご覧になれます。

入会のご案内

産業人クラブ（旧日本工業会）は昭和30年11月に発足、以来常に時代に即応した組織に軌道修正しながら、いつの時代でも中堅・中小企業経営者が一番必要とする問題点をとらえ、講演会、研究会、工場見学会、国際交流などを実施するとともに、そのときどきの情報を提供して会員の皆様の経営に役立つような事業を展開して参りました。

ご承知のとおり、わが国産業界は、めまぐるしく変化する国際社会のなかにあって、その動向が世界各国から注目されております。とりわけ最近は、経済のグローバル化、情報化の進展などにともなって、産業構造の変化もはげしく、的確で迅速な情報の入手が不可欠となっております。

各産業人クラブは全国にある29の産業人クラブ（会員数1750名）と、密接な連携をとりながら、先進的な活動を行っております。

こうした事業は必ず皆様の経営にお役に立つものと思われます。

皆様方のご入会を心よりお待ちしております。

活動のあらまし

●講演会の開催
産業界はじめ各界で活躍している著名人を招き、政治、経済、外交、産業、科学技術など、その時々の問題をとらえて企業経営に役立つ講演会を開催しています。

●経営研究会の開催
会員相互のコミュニケーション・異業種間交流に重点をおき、経営、技術、商品開発などを中心に企業経営者の相互開発の場をつくります。また、会員による意見発表ならびに日刊工業新聞記者による産業情報を随時提供し、会員の参考に供するほか、懇親会による交流を深めています。

●工場見学会の開催
各種の試験研究機関ならびに新技術、生産設備の進んだ先端的な工場を対象に、企業経営に役立つ見学会を実施しています。

●分科会活動の実施
会員間のキメ細かな情報交換・交流を深めるため分科会を組織し、積極的な事業展開を行っています。

●ゴルフ大会の開催
会員相互の親睦と健康増進をはかるため、各地域の名門コースで開催しています。